

太宰府中学校3学年だより

No.4

R4. 4.26

文責：3年学年主任

3年目の「ミチザネノート」

～自分の力で、自分なりの学習方法を身につけ、勉強する本当の意味を確かめよう。



先週から体育祭練習が始まりました。2年間、中学校の体育祭を経験しないまま、最高学年として体育祭を引っ張る立場になった皆さんが、果たしてどのようにすすめていくのか心配でしたが、その思いが杞憂になるほど、立派な姿で後輩を引っ張り、一生懸命頑張っています。

今年も感染拡大防止のために、午前中開催になりますが、今回、これまで太宰府中の体育祭で行っていた演技を徐々に取り入れていくことになりました。

その中の1つが集団演技（パフォーマンス）です。どのような演技なのか、暗中模索の中でのスタートでしたが、皆さんの持っている知恵やセンスをお互いに出し合っ、少しずつできあがっています。先日は、3年生だけでやってみましたが、リーダーが必死で演技を伝えながら、皆さんが楽しそうに踊っている様子を見て、良い方向に進んでいると感じました。

3年部の先生方が、昼休みも放課後も皆さんと関わって、毎日の体育祭練習を振り返ったり、これからの練習の進め方を話し合ったりして、昨日よりも今日がよりよくなるように進めています。

体育祭推進委員長の松本先生も、皆さんの頑張りに負けじと、毎朝先生たちに練習計画を提案したり、それぞれの係の仕事の進捗状況がどのくらい進んでいるかを細かく調整しています。

今週は、お天気に恵まれない日が続きますが、どんな状況であっても、お互いで知恵を出しあいながら、一歩ずつ進めていきましょう。

さて、体育祭練習と同様、毎日の授業も大切なことです。3年生になって、進路を意識しているのか、一層授業に集中しているようです。集中した中にも、明るい笑い声や、仲間のユニークな発言に呼応するよい雰囲気などの学級にも見られます。

今年から、家庭学習ノート（ミチザネノート）の形式が変わりました。その目的は、「自分の力で、勉強の仕方を身につける」スキルを身につけてほしいからです。

これまで皆さんは、勉強のしかたについて、先生方から手をさしのべてもらったことが多かったと思います。定期考査前の学習計画づくりや放課後学習会に加えて、取り組み不足のノートについては「やりなおしをする」など、きめ細かい指導を受けてきました。

皆さんが勉強を頑張ろうという姿に、先生たちも時間をかけてできるだけの手助けを行った結果、学習成績もめざましく伸びました。どの人もその人なりの「学習の仕方」を身につけることができたと思います。

3年生に進級した皆さんは、これからはその力を自分の力で高めてほしいと思います。「先生が何とかしてくれる」「言えばプリントをくれる」といった「誰かが何とかしてくれる」ことに頼らず、自分で教科書やノートやワーク等を使って学習するのです。

これまでは「やらされている感」があったかもしれませんが、これからは「自分のために」やるという心を入れ替えて取り組んでほしいと思います。

このことは、「自分のことは自分で責任を持つ」自立する力のもとになります。

数ヶ月後に誰にでもやってくる進路決定での基本は「自立」だということは、進路学習会で話したと思います。

ミチザネノートが今よりも一歩進化した「自立のノート」になることを楽しみにしています。

次の文は、先生が前の学校で実際に経験したできごとです。主人公の「彼」は現在35歳になり、地元の建設会社で元気に働いています。

「先生、頼みがあるんだ。俺に小学校の算数ドリルをくれませんか。」

突然、私が勤める中学校に卒業生が尋ねてきました。

彼は高校を中退して、地元の工務店で働いています。毎日重たいセメントや木材を運び、家を建てる仕事の見習いをしています。

そこで親方に毎回叱られるそうです。「このくらいの計算もできないのか。おまえ、中学校出とっちゃろう。何やってんだ!」

例えば、材料のセメントがこの建物で合計何kg必要かとか、この床に何枚のタイルを貼ればよいか等と言った計算ができないで苦勞しているそうです。このままではクビになるので、何とか計算力をつけたいと思って私しか頼るところがなくて来ましたと、恥ずかしそうに話してくれました。

彼は、確かに勉強が苦手な宿題をやって来ずよく叱られていました。でも、明るく優しい生徒で、特に学習室の友だちに親切な生徒でした。中学校の時は、文化発表会の実行委員として司会もつとめました。友だちと一緒にある私立高校へ進学しましたが、勉強より早く大工の技を身につけたいと思ったらしく、退学したそうです。

しばらく彼と話をしましたが、彼が最後に話した言葉が、とても印象に残りました。

「先生、勉強ってさ、あの時は何でやるのかわからんで本当に嫌だった。でもさ、ある時親方が『おまえな、働いて生きていくってことは頭を使って考えないとできないんだぞ。理科とか英語の勉強だってよお、“頭を使って考える”ことは同じなんじゃないか。』と話してくれてさ、その時にああそうかってわかったんだ。」

